

第2 実践事例

事例1 探究的な学習【課題の設定】 課題をスパイラルに高めるために、活動の方向性を確かにする事例

- 学年 第5学年
- 探究課題 多様な自己表現の在り方と表現することの喜び（自己表現）
- 主な事例のポイント ※それぞれの実践例にて紹介
 - ①構造的な板書によって児童の考えを広げたり、整理したりする「課題の設定」を行う。
 - ②児童の思いや願いに合わせ、複数回ゲストティーチャーと交流する「課題の設定」を行う。
 - ③活動状況を振り返ることで、今後の活動に見通しをもつ「課題の設定」を行う。

1 単元名 ヒップホップで笑顔になろう！

2 単元の目標

ヒップホップの表現を用いて作品作りをしたり、発表したりする活動を通して、ヒップホップの表現のよさに気付き、多様な自己表現の在り方について考えるとともに、自己表現することの喜びを感じ、自身の生活に生かすことができるようにする。

3 児童の実態（省略）

4 教材について

本実践では、児童が楽しみながら自己表現をすることができるように、ヒップホップを教材として単元を構成していく。ヒップホップは、1970年代に「人々を楽しませることと、社会的なメッセージを伝える文化」として誕生したと言われている。ヒップホップはラップ・ダンス・グラフィティアート・DJという4つの要素から成り立っている。ヒップホップのよさとして、4つの要素から自分にあった表現方法を選択しやすいこと、リズムに合わせ、自分の思いを表現しやすいことが挙げられる。

本実践ではまず、現在自分たちが抱えている思いやストレスについて整理をしていく。その後、表現方法としてラップを知り、ゲストティーチャーとの関わりを通して、自己表現することの喜びに気付くことができるようにする。また、ダンスとグラフィティアートについても調べ、多様な表現方法から自分に合った表現方法を考えていく。最後には身に付けた表現方法を用いて、自分たちの思いを作品として表現し、外部に向けて発信していく活動を設定していく。周囲の人々からの反応を受け、自分たちの表現のよさを実感し、達成感を得ることで、表現への意欲をさらに高め、自身の生活に生かしていくことができるようにしていきたい。

5 単元の評価規準


知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①ヒップホップのもつ表現のよさに気付いている。 ②自分の思いをヒップホップで楽しく表現するために、自分の主張したいことを整理する適切な方法を考え、実施している。 ③ヒップホップの表現について探究的に学習してきたことを通して、自分なりに自己表現の在り方について理解を深めている。	①解決したいことから課題を設定し、解決に向けて自分にできることを考えている。 ②ヒップホップの特徴や、よりよい表現方法について知るために、手段を選択して情報を収集している。 ③よりよい表現方法を目指し、収集した情報を比較したり、関連付けたりして、自分たちなりの表現を選択している。 ④自分たちも周囲の人々も笑顔にすることができるように、伝えたいことを工夫して表現している。	①ヒップホップの作品作りや企画の運営において、自分らしい表現や、自分とは異なる他者の表現を尊重しようとしている。 ②友達やゲストティーチャーとの関わりを大切にし、自分とは異なる意見や考え方を生かしながら、協働的に探究的な学習に取り組んでいる。 ③課題解決の状況を振り返り、自分が納得のいく表現を目指して、あきらめずに最後まで作品作りを行おうとしている。

6 単元の指導計画と評価計画（70 時間扱い）

※「課題」：課題の設定 「情報」：情報の収集 「整理」：整理・分析 「表現」：まとめ・表現

過程	○学習活動・児童の思考	・指導上の留意点 ○評価（評価方法）
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○オリエンテーションをする。(1) <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間の進め方が分かったよ。 ○課題を設定する。(2) <ul style="list-style-type: none"> ・今年はどうなことをテーマに学習しようかな。みんなで話し合おう。 ・コロナ禍で我慢することが増えていることが気になるな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間のねらいや進め方について確認し、学習に見通しをもつことができるようにする。 ・児童が現在関心のある社会問題から課題を設定することができるようにする。 <p>○思・判・表①（発言・ノート）</p> <p>事例のポイント① 実践例1を参照</p>
情報	<p>課題① ストレスに対処する方法を考えよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ストレスに対処する方法を考える。(3) <ul style="list-style-type: none"> ・歌を歌うといいと思います。 ・スポーツをして体を動かそう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツや音楽など、ストレスへの対処の方法として、具体的な活動を視点として調べることができるようにする。 ・実際に試す時間をとり、どんな活動がストレスに対処するために有効だったか考えることができるようにする。 ・データチャートを用いて、それぞれの意見の特徴を比較できるようにすることで、考えをしばることができるようにする。 ・ラップについて現在のイメージを全体で共有していく。そうすることで、ラップについて自分たちがよく知らないことに気付き、次の課題につなげていくことができるようにする。
整理	<ul style="list-style-type: none"> ○調べたり試したりしたことを整理する。(2) <ul style="list-style-type: none"> ・歌を歌う中でも、リズムのよいラップは試してみてすごく気持ちがよかったな。 ・ラップってどうしたら上手くできるんだろう。上手くできたら楽しそうだな。 ○ラップについて知っていることを整理する。(1) <ul style="list-style-type: none"> ・ラップは早口で歌うものだよな。 ・もっとラップについて知りたいな。 	
課題	<p>課題② ラップについて詳しくなるう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを活用して情報収集をする。その際、一人一台のICT端末を使用し、動画教材などを活用して調べることができるようにする。 ・ラップについて調べたことを話し合うことで、ラップについての関心を高めるとともに、専門家の方をゲストティーチャーとして招き、詳しくインタビューをしたいという思いを引き出していく。 ・専門家の方と連携をするために、大学でヒップホップを研究している方に協力を依頼しておく。 ・体験したことを振り返り、ラップの表現のよさについて感じたことを全体で共有できるようにする。 ・ラップの表現のよさをつかって、これからどんな活動をしていきたいか話し合いを行い、課題設定をしていく。 <p>○知・扱①（発言・振り返りカード）</p>
情報	<ul style="list-style-type: none"> ○ラップについて調べる。(2) <ul style="list-style-type: none"> ・ラップの曲は聴いていると元気が出てくるな。 	
整理	<ul style="list-style-type: none"> ○ラップについて調べたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ラップはリズムが大切だと思うよ。 ・歌詞が特徴的なんだけど、どうしたら、言葉を上手く使えるのか分からないな。 ・ラップの専門家の方に実際にラップのやり方を聞きたいな。 	
情報	<ul style="list-style-type: none"> ○ゲストティーチャーの方と交流会を行い、ラップのやり方を知る。(3) 	
整理	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーの方の話を聞いたら、自分でも簡単なラップが作れたよ。 	
表現	<ul style="list-style-type: none"> ○交流会を振り返り、ラップの表現のよさについて話し合う。(2) <ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャーの方の話を振り返ると、ラップへのイメージが変わったな。 ・体験したことをつかって、クラスのオリジナルラップを作ったら楽しそうだな。 	

<p>課題</p> <p>情報整理</p> <p>表現</p> <p>情報</p> <p>整理表現</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 課題③ クラスのオリジナルラップを作ろう </div> <p>○曲の歌詞を考える。(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちのよいところを歌詞にしたいね。 ・歌詞が印象的になるには、使いたい言葉を順序づけて整理する必要があるな。 <p>○曲を作成する。(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完成した曲を、ゲストティーチャーの方にも聞いて欲しいな。 <p>○ゲストティーチャーの方に曲を披露する。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドバイスをもらったから、よりよい曲にしていきたいな。 <p>○アドバイスを基に、改善点を考え、曲を作り直す。(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっとよい曲になったぞ。 <p>○他のクラスや学年に曲を披露する。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなすごく楽しそうに聞いてくれたな。うれしいな。 ・ラップの楽しい雰囲気は、みんなを笑顔にすることができるな。 <p>○ゲストティーチャーの方に曲の完成を報告する。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラップを楽しんでくれて嬉しいと言われて、私も嬉しくなったな。 ・ヒップホップの表現で「みんなを笑顔にして。」と言われたけれどどうしたらよいのだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体で共有したラップの表現のよさについて確認し、自分たちが笑顔になるための活動を考え、課題の設定を行うことができるようにする。 ・ピラミッドチャートを活用し、考えを序列化し、自分たちの思いを可視化して捉えることができるようにする。 <p>○知・技④ (ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ステップチャートを用いて、歌詞を入れ替えることで、何度も試しながら作成できるようにしていく。 ・オンライン会議サービスを活用し、ゲストティーチャーから曲へのアドバイスをいただく。そうすることで、さらにより曲にしていきたいという児童の思いを引き出す。 <p>○態② (発言・振り返りカード)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲への感想をアンケート集計し、楽しんでもらえたか分析する。 ・ラップの曲づくりを通して、自分は笑顔になれたか、周りを笑顔にできたかを視点に表現活動を振り返る。 ・ゲストティーチャーの方に、曲への感想をいただく。また、自分たちの表現で、周囲を笑顔にするために、ヒップホップの考え方についてお話をいただき、次の課題につなげていく。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 事例のポイント② 実践例2を参照 </div>
<p>課題</p> <p>情報</p> <p>整理</p> <p>情報</p> <p>課題情報</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 課題④ ヒップホップの考え方を生かして、〇〇小笑顔プロジェクトを企画しよう </div> <p>○ヒップホップについて調べる。(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒップホップはラップだけではなく、ダンスやグラフィティアートという表現方法もあるのか。 <p>○ヒップホップの表現の特徴について整理をする。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒップホップの表現はとても自由なんだね。 <p>○自分に合った表現方法を考える。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私はダンスの方が自分の思いを表現できるかもしれないな。 <p>○どんなテーマで作品作りをするか考える。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校のみんなは、どんなことにストレス 	<p style="text-align: center;">編 P188 指導計画作成の留意事項(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒップホップの表現はラップだけではなく、ダンスやアートも含まれていることに気付くことができるようにする。 <p>○思・判・裁② (発言・ノート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・PMIシートを活用し、調べたことを整理することができるようにする。 ・1つのテーマから「ラップ」・「ダンス」・「グラフィティアート」の3つの表現方法を試し、自分に合っている表現方法を考えることができるようにする。 <p>○思・判・裁③ (発言・ノート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手意識や目的意識を視点に話し合うことができるようにする。 ・学校の児童あてにアンケートを作成し、

<p>整理 表現</p>	<p>を抱えているのかな。</p> <p>○役割を分担する。(2)</p> <p>○分担に分かれて作品作りを進める。(7)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の得意なことを生かして、作品作りを行おう。 <p>〔 ラップグループ ダンスグループ アートグループ 〕</p> 	<p>ICT端末を活用して集計を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で感じる不安や不満など、ネガティブな思いをポジティブな表現に変えていくことを意識して、作品の制作を行うことができるようにする。 <p>○知① (発言・行動・ノート)</p> <p>編 P188 指導計画作成の留意事項(3)</p>
<p>整理 課題</p>	<p>○全体で作品作りの状況について振り返る。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なかなか自分たちだけでは、手詰まりになってきたな。 ・活動を振り返ると、よい点も問題点も見つかったな。 ・他の人の意見も聞きたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の制作の進行具合を確認する。ゲストティーチャーの方には随時児童の活動について連絡を取り合い、情報の共有を図っておく。児童からゲストティーチャーの方に意見をもらいたいというタイミングを見計らい、協力依頼をすることができる専門家を探しておく。
<p>整理</p>	<p>○分担ごとに専門家の方をゲストに迎える計画を立てる。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリジナルラップの時にお世話になった方にもう一度電話をしてみよう。 ・失礼のないように協力を依頼するにはどうしたらよいか。 ・依頼のメールを送るときには、快く協力してもらえるように、何度も文面を確認しよう。 	<p>事例のポイント③ 実践例3を参照</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見る人や聴く人が笑顔になることができるような作品になっているか、専門家の方に伺いたいという思いを課題設定につなげていく。 ・協力を依頼する際には、失礼にならないように、メールや電話の内容をよく精査するようにしていく。 <p>○知・振③ (発言・振り返りカード)</p>
<p>情報 課題</p>	<p>○専門家の方々にアドバイスをいただく。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品にアドバイスをもらって、改善するべき点が見えてきたよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン会議サービスを活用し、ゲストティーチャーから表現へのアドバイスをいただく。忌憚のない意見をいただくことで、さらに活動を発展させていく意欲を引き出せるようにする。
<p>整理 表現</p>	<p>○アドバイスを基に改善する。(7)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラップの歌詞には、普段なかなか言えない熱い思いを込めるようにしたよ。 ・私たちのダンスは、未来へのワクワク感を表したいから、最後に向かってテンポが速くなるように構成したんだ。 ・体育館の壁いっぱいになるくらいの大きな絵を描くのは初めてで大変だったけれど、あきらめずにやりきれたよ。 ・完成した作品を発表したいな。 <p>○発表の練習を行う。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表が成功するとうれしいな。 <p>○作品を動画に撮り、全校児童に披露する。(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頑張った成果を発揮できてよかったな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・専門家の方々からいただいたアドバイスを生かしていくことで、さらに自分たちの納得のいく表現をつくり上げることができるようにする。 <p>○振③ (発言・活動・振り返りカード)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表の様子は録画し、全校児童や地域の方々に配信をする。作品への感想をアンケート集計し、楽しんでもらえたかについて分析する。 <p>○思・判・裁④ (活動)</p>
<p>表現</p>	<p>○これまでの活動を振り返る。(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒップホップを通して、自分の伝えたいことを、自信をもって表現できるようになったよ。これからも続けたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことをこれからの生活にどのように生かしていきたいか考えることができるようにする。 <p>○知・振② (発言・ノート)</p>

7 実践例

【実践例1】構造的な板書によって児童の考えを広げたり、整理したりする「課題の設定」

(①ウェビングマップ・②ストーリーマップの活用)

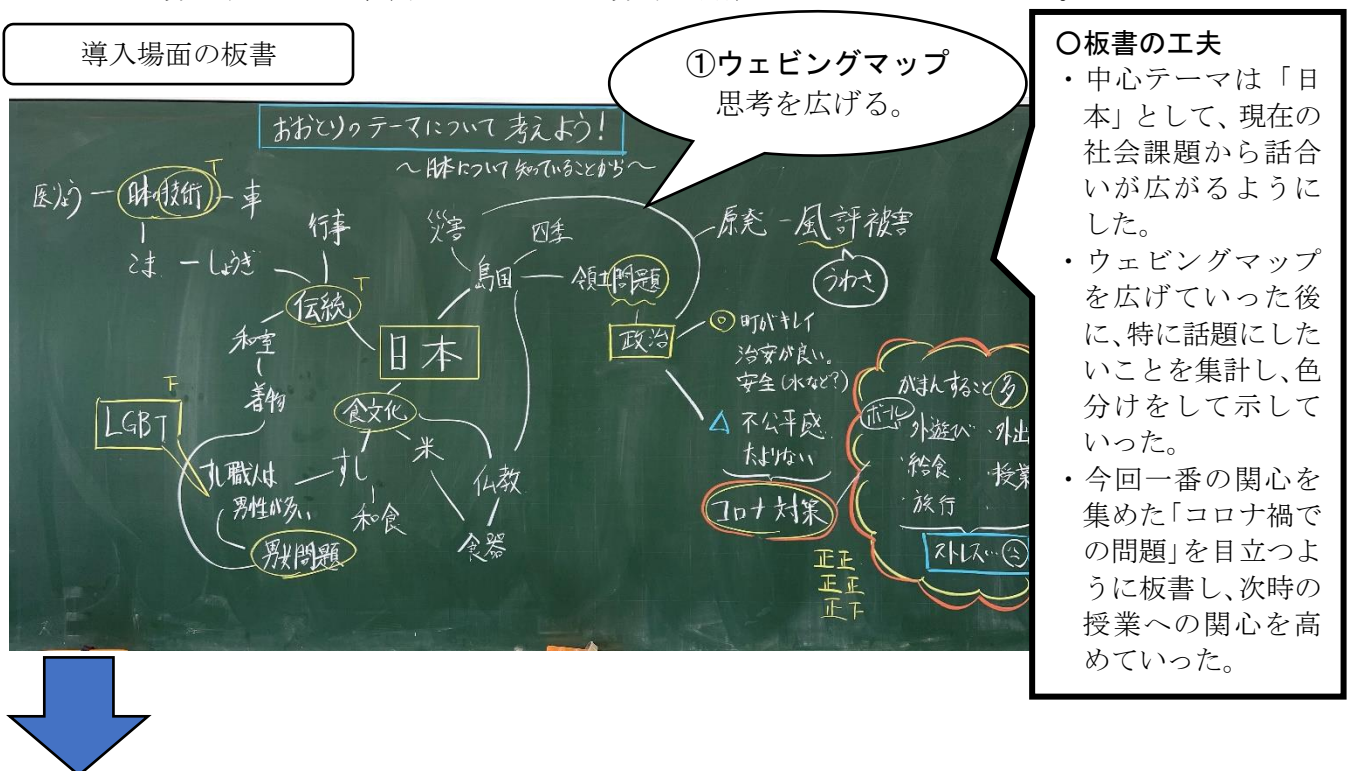
構造的な板書について

児童が課題を自分事として設定していくためには、児童の考えを広げたり、整理したりする教師の意図的な関わりが欠かせないと考えます。そこで、構造的な板書を意識し、児童の考えを可視化できるようにしていった。板書によって可視化することで、思考をつなげ、広げたり、比較したりしやすくなった。自分たちの思考を可視化し、明確にしていくことで、課題をスパイラル的に高めていこうという意欲につながった。

第2時

単元の導入において、児童の考えを広げ、つなぎ合わせ、課題を明確にすることができるように、①ウェビングマップを活用した。多様な考えをもつ児童の考えを可視化し、マップに示すことで、今自分たちが社会の中で関心をもっていることを書き出し、思考を広げることができた。また、調べたいことを色分けすることで、関心をもっている分野を明確にしていくことができた。

導入場面の板書



○児童の姿

自分が関心をもっていることと、他の友達に関心をもっていることについてウェビングマップを活用し視覚化していったところ、生まれた話題の多さに驚いている児童が多かった。そして、その中から特に関心のある話題について自分たちで話し合い、決定していくことができた。そうすることで、教師から課題を提示されるよりも納得感をもって学習するテーマを決めることができた。

第3時

第3時も、①ウェビングマップを活用し、「コロナ禍での問題について、どのようなことを解決したいのか」について話し合いを行っていった。広げたことを比較したり、関連付けたりして考えることで、今年度の総合的な学習の時間におけるテーマを設定することができた。また、設定したテーマについて、②ストーリーマップを活用し、解決のための大まかな見通しをもてるようにした。そうすることで、どんなことを考えていけばよいか、自分たちで課題設定を行うことができた。

① 課題設定に関わる発話と発問

- ・ 随時ゲストティーチャーの方に、児童の様子と児童の思いを活動の流れに合わせて伝えておく。
- ・ ヒップホップを通して自分たちの周りの人々を笑顔にすることをゲストティーチャーの方にお話しいただく。そうすることにより、児童は今後の活動に意欲と見通しをもち、課題設定につなげていくことができた。
- ・ 今回は、ゲストティーチャーの方から曲を1曲提供いただけることを事前に確認していたため、担任は児童が作品作りを発想することができるように発問をした。

② ICT機器の活用

- ・ オンライン会議サービスを利用して、ゲストティーチャーの方とオンライン会議を行う。



○ 児童の姿

自分たちや周囲の人々がコロナ禍においてストレスに感じていることや不安などを、ヒップホップの表現を生かして、笑顔へと変えていけるような企画をしたいという課題設定をすることができた。また、そのためにヒップホップの表現について、もっと知りたいという児童の意識を引き出すことができた。

【実践例3】 活動状況を振り返ることで、今後の活動に見通しをもつ「課題の設定」 (① PMI・② Yチャートの活用・③ ICT端末の活用)

活動状況を振り返り、問題を見出す。

第50時までに、児童はそれぞれグループに分かれて作品作りを行ってきた。現在の時点でそれぞれのグループの発表をビデオにまとめた。

第51時にビデオを視聴し、全体で進行状況を確認すると、「なんとなく形になってきているけれど、何か足りない」と発言する児童がいた。そこで、PMIを用いて活動を振り返り、ここまでの成果と問題点を整理していった。



③ ICT端末の活用

パフォーマンスを振り返る。

第51時の板書

自分たちのこれまでの作品を観てふりかえろう!

Teams → 5-3 → おおむ → ファイル

課題の明確化

P	M	I
よ、笑顔! (のびる) 一通り流せた! (のびる)	グループ一体感! (のびる) 自信なまげ (のびる) ダンス → 伝えたい! (のびる)	ダンスのリズム! (のびる) ダンスの体育館の登場! (のびる) ダンスのコーラス! (のびる)

① パフォーマンス スキルアップ! ② 参加の工夫 ③ 伝えたいことの精選 (メモリー性を高める)

観て欲しい! 参加者が楽しい!!

追力制! ↓ 時間! 要確認

メモリー性 ↑

何を伝えたい? (のびる)

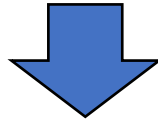
文字をもっと強調?

① PMIの活用

成果と問題点を振り返り、整理する。

○児童の姿

自分たちの活動を動画で振り返り、PMIを活用し、成果と問題点を整理した。そうすることで、改めて、パフォーマンスの質を高めること、見ている人も参加できるような工夫を考えること、自分たちの表現に込める思いについて、より考えていく必要があることに気付いた。次時は、これらを視点に、今後の活動について考えていこうとすることができた。

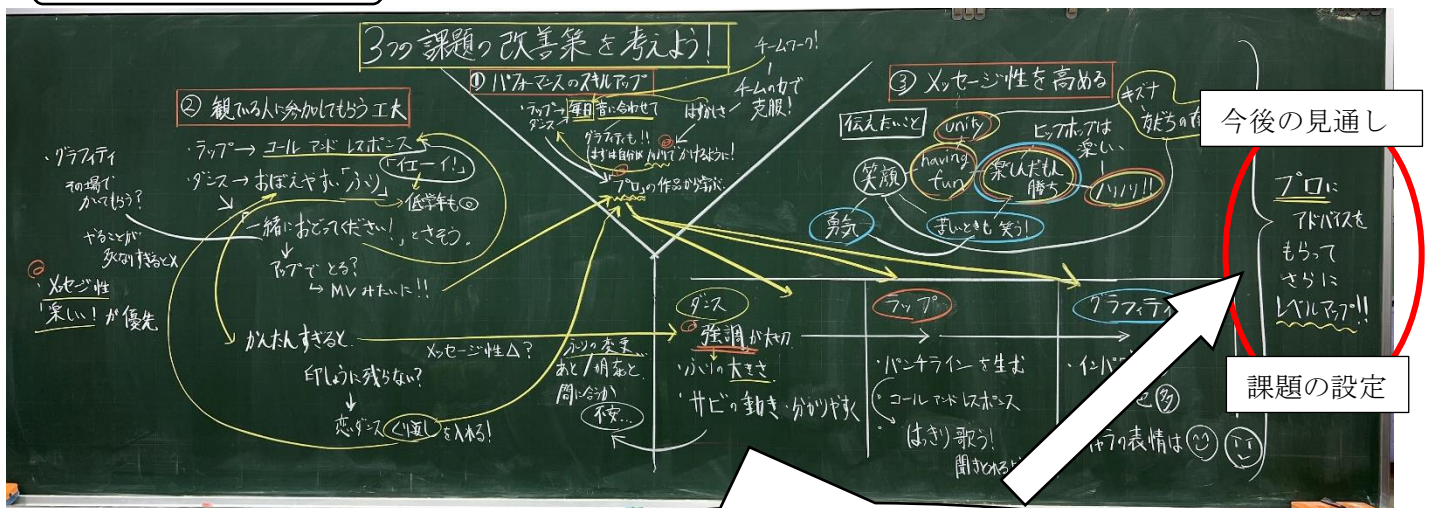


解決策を探り、今後の活動の見通しをもつ。

前時に整理した成果と問題点を活用し、Yチャートを活用して、解決策を考えていった。Yチャートには3つの視点を設定した。

- (1. パフォーマンスのスキルアップ 2. 観ている人に参加してもらおう工夫 3. メッセージ性を高める)

第52時の板書



② Yチャートの活用

視点について思考を広げたり、関連付けたりすることで、今後の見通しにつなげた。

○児童の姿

解決策を考え、整理した結果、専門家の方を再度ゲストティーチャーとして迎え、客観的で、より専門的なアドバイスをいただく必要があるという課題意識につながっていった。その結果、児童は停滞感を感じていた自分たちの作品に、さらなる可能性を見だし、次の活動に向けて進んでいこうとする意欲をもつことができた。